

# 玉磨かざれば光なし

神奈川県 田宮 治



◎基礎訓練だけはきちっとやる事。「訓練で出来ない事はない」と思う事が大切

何事においても「これは素晴らしい」、と評価されたり、自分が「納得出来るまで登りつめる事」は、「大変な努力」と「気の遠くなる歳月」が必要である。どんなに頑張ってもなかなか思う様には行かないのが世の常である。「才能と努力のなせる技」とか「努力に勝る天才なし」などと「その道を登りつめる方法」はさまざま名言で語り継がれているが、「頂点に立つ」にはただ一つ「信念をもって挑戦し続ける」、以外ないと思うのである。

## ◎愛犬自慢

愛犬自慢と言ってもさまざまで大げさに「出来もしない猟犬」をことさら自慢する、いわゆる「大螺吹き」の類から「完成犬」つまり「子犬作り」にはじまり「慈しみ育て」・「訓練して仕上げる」。その中で「培われた体験」や「その成果」をなんとか他人様にも解ってもらいたい、そんな自慢話もあると思うのだが、基本的には、獵人で

◎大切な「つる」・自慢の予感・仲良し兄弟である。俊敏こそが猪犬の大切な条件である



◎5ヶ月犬と6ヶ月犬の戦いぶり。「決して逃げず」に「一直線の咬み」が大切。「スピード」と「気迫」が勝負を決める

あるかぎり愛犬自慢は大いにやるべきである。  
「一流犬に出来上った」と思えば、だれだって「子犬作り」でも「訓練法」でも、その苦勞語を含め「実戦を見て頂く事」で、解って欲しくなるものである。獵犬自慢は「獵人が理想を追う」ほほえましい姿である。と共に、そうあって欲しい「夢の実現」になくはならない事だと思うのである。「子犬作り」や「訓練で」、とことん理想を追う中で、その苦勞も、ストレスもぶつ飛んでしまう様な「大螺を吹いて」、「目標の名犬完成」を「高らかに宣言」する「自慢話」はどんどんやって欲しいものである。獵人であり続ける以上、常に相棒の愛犬を氣遣い、オフシーズンでも山に引きその時々合った訓練をやる事で、自慢出来る獵芸を完成させてやりたいものである。まじがっても愛犬を「ぐちったり」、「ボヤいたり」する獵人であってはならないし、決して「怒ったり」しない事である。「出来ない」・「仕上がらない」は偏に獵人の努力と頑張りに懸かっているのである。押し並べて断言すれば、「あの獵人にして」・「あの獵犬あり」である。そんな事から考えてみると、今回のテーマである愛犬自慢は私にピッタリだと思ったのである。「馬鹿ではないか」と思われる程の「猪犬へのこだわり」である。それこそ汗まみれ、糞まみれで犬

◎H20年、秋までには「一流猪犬に」と期待の4頭。6ヶ月、訓練中の、ブイ号、カツ号、武蔵号と母親ナオ号



◎すばらしい猟能。今猟期はこの兄妹犬で決まりである。どの親の子犬でも、まちがえなくどどん猪にゆく。(左から母ナオ、武蔵・カツ・千代・ブイ号と後ろ1頭は長野の金田犬舎にゆく)

◎どんな猪でも「動けぬ止め芸」となによりも無傷でありたい。その為にバックを作るのである

舎掃除をし、「子犬を作る事」からはじまって「訓練に継ぐ訓練」、そして「実戦を重ねる事」で「犬群の実力を勝ち取って来た」のである。雨の日も暑さの中でも苦勞し頑張つて、ただただ「理想の猪犬」を追い求める事だけで「何十年もやって来た」のである。時には大螺も吹きたいところだ





◎心なごむ至福のひとつ  
(千葉にて)。

(左から勢子長の斉藤氏、親方の石井氏。1人とび、全猟で優勝経験のある伊藤氏と杉本氏)

H20.2.15. 千葉で終猟(猪5頭、鹿1頭)

◎納得の1日、笑顔でハイポーズ!!

※このうち3頭は私の「犬達が咬み止めた」もので残りは追ってタツがしとめたものである



が、私が自慢したいのは、そんな中で出来上った「田宮系猪犬」であり、猪犬のあるべき「実戦での姿」と「きわめつけの一芸」である。当然の事一流猪犬はだれが見ても一流でなくてはならないし、どんな荒猪でも難なく撃ち取れる事である。その上「安全」で「安心」の「納得の猪猟が出来る」犬でなくてはならない。「実戦での姿」は「咬み」をともなった「必要な鳴き」と「からみ」、なによりも大切なのは「スピード」と「気迫」であるが、訓練で磨き極めてゆく以外ないと思うのである。ただ猪犬なればこそ訓練がやりづらく、完成出来ない「一芸」、つまり「本能のなせる技」であるが、これは長い年月をかけた「子犬作り」であって、「交配によって」のみ生かされる「本能の完成」なのである。何の為に大金をつぎこんだのでもなく「素材犬」がいかに大切であるか、「どうしても残し置きたい」・「すばらしい一芸」とか「秘芸」を後世に伝えたく猪犬群「50〜60頭」の中から選び「8世代」もかけてやっとの事で完成したのが「田宮系猪犬」である。まさに人生をかけた「猪犬作りの計画」であり、その「目標」は、「何処に出しても恥ずかしくない犬」であり、私の自慢も当然の事「すばらしい猪犬群」にある。